

「子どもの学びをトコトン支える県民の会」 第2回会議 議事録（全体部分）

日 時：令和7年9月3日（水） 10時30分～12時00分

場 所：長野県庁 特別会議室

1 開会

2 あいさつ

（長野県教育委員会 武田教育長）

皆さんおはようございます。第2回の子どもの学びをトコトン支える県民の会にご出席いただいたことに感謝を申し上げます。

よりよい社会をつくっていくというときに、その基盤となっていくのは教育であるということは、多くの方々がそう思っていることと思います。その教育というときに、学校教育が果たす役割は非常に大きい。

多分皆様方も、どんな小学校の時代、どんな中学校の時代どんな高等学校の時代を過ごしたかっていうことが、様々な意味で皆さん方をつくっていると思います。そして、その小学校時代、中学校時代、高校時代と考えた時に、そこには必ず先生がいたと思います。ただ、その先生たちが多忙で、子どもたちと関わる時間がなかなかできない状況であるというのがあります。これは教育として本末転倒ではないかと思えます。

この会議は、先生たちが本来子どもたちと一緒に子どもたちに向き合って、子どもたちの話を聞いて、子どもたちと一緒に遊ぶ。そんなことができる環境をどうつくっていくのかという、これはもう学校だけの問題ではなくて、社会全体の問題ではないかということで、会議をしているところであります。

今日は、前回に続いて、各学校の先生たちが行ってる業務を、このまま先生たちがやっていていいのかということと、それからこの会としてどういうことを県民の皆様 にアピールしていこうかということ。大きくこの2つのことについて、この会議で検討していただきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

（長野県教育委員会事務局 水野教育政策課長）

ここで、本日の配付資料の確認をさせていただきます。次第、出席者名簿、座席表、冊子になっております。会議資料、資料2、資料3でございます。資料の不足などはございませんでしょうか。

本日ご出席の皆様のご紹介ですが、恐れ入りますが出席者名簿の配布にて代えさせていただきます。

なお、本日阿部知事は所用により、途中からウェブでの参加となりますので、ご了承くださいますようお願いいたします。

本日の会議ですが、公開とさせていただきます。後日会議録アーカイブ動画、資料などをホームページで公表をさせていただく予定であります。会議の様子を録音させていただいておりますので、ご了承くださいますようお願い申し上げます。それでは会議事項に入ります。

この会議ですが、子どもの学びを社会みんなで支える機運を高めるため、7月の第1回の会議に続き実施するものでございます。ここからの進行は、長野県教育委員会武田教育長にお願いしたいと思います。お願いいたします。

3 第1回振り返りと第2回実施内容の説明

(長野県教育委員会 武田教育長)

それでは議題に入りたいと思います。

前回に続いて司会をさせていただきますけれども、前回終わったところで、「武田さんが進行しているといつ指名されるかわからない緊張感がある」ということを伺いました。今日もそういう緊張感をもって行きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは前回の振り返りと、本日議論したいことにつきまして、事務局から説明をいたします。お願いいたします。

(長野県教育委員会事務局 教育政策課中村企画係長)

教育政策課企画係長の中村と申します。お手元の資料1をベースにご説明いたします。画面に映しながら、説明いたしますのでよろしくお願いします。

前回ですが、まず学校現場が現状どんな状況なのかを知るために、公立小中学校の2名の校長先生にプレゼンテーションをしていただきました。その後、2019年に文部科学省から示された「学校・教師が担う業務に係る3分類」のうち、「基本的には学校以外が担うべき業務」とされる部分について、学校は実施をやめてよいかという方針を議論したところです。

次の3ページ目をご覧ください。各グループが、多くの業務を「やめてよいのではないか」とされた一方、「学校がやめるためには、誰がやるかまで考える必要がある」ということや、「議論対象ではなかった、学校の教員が担うべき本来の業務についての

議論も必要ではないか」といった今後の方向性も示されたところです。

続いて4ページをご覧ください。これまでの業務をやめたり変えたりしていくにあたって、保護者との関係性をどうつくっていけばよいかについても話し合われました。各グループで議論の切り口は様々でしたが、大きく、「保護者と学校の良い関係性」と、「学校側の仕組み・体制づくり」この2つが必要との意見が多く出ました。

以上が前回会議の振り返りです。県のホームページやYouTubeで前回会議の様子をアップロード公開していますが、これを見た学校の教職員からも声が届いています。

「幅広い皆さんが、学校の状況について考えてくださってとても心強い」といった言葉や、「学校だけで閉じようとせず、一緒に学校を盛り上げていきたいと思った」、「学校によって実情が違うので、具体的な検討に当たっては、こういう議論を市町村や学区単位で集まってやる必要があるのではないか」、といった今後に向けての意見も聞かれているところです。

そこで6ページ目ですが、本日は、子どもの学びを地域や社会みんなで支えていこうという機運をさらに高めていくため、3つのことを実施したいと考えております。1つ目は、前回実施できなかった学校や教員の本来業務にフォーカスしたグループ討議を行いたいと考えています。2つ目は、前回会議で提案した来校者保護者向けのポスターについて、同じく前回会議の保護者対応でのグループ協議で出された意見を踏まえ、少し変えたい箇所がありその調整をいたしました。そのご報告と、最新案の検討をお願いしたいと考えています。3つ目は、「長野県は子どもの学びをみんなで支えます」ということを広く伝えるための共同宣言について検討したいと考えています。説明は以上になります。

(長野県教育委員会 武田教育長)

これまでの経過等について説明をいたしました。質問や前回の感想等あればご発言をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本日の1つ目のグループ討議をこれから行っていききたいと思います。討議内容について事務局から説明をお願いします。

(長野県教育委員会事務局 教育政策課 中村企画係長)

資料1の7ページ目をご覧ください。前回は「基本的には学校以外が担うべき業務」とされる部分について、学校がやめてよいかを検討しましたが、今回は、4ページ赤枠の部分、学校や教員の業務について、どうしたら教員の負担を軽減できるかを、

前回同様グループ単位で意見交換をお願いしたいと考えております。記載の業務⑤から⑭とございますが、このうちイメージがわくものを取り出して議論していただいても結構ですし、教員業務全体として考えていただいても結構です。

ちなみにこのいわゆる3分類ですが、次の8ページ目に示すように、8月19日に文部科学省の会議で改定案が示されているところです。業務がいくつか追加されていること、またこれらを代表例として、地域や学校ごとの議論を踏まえて業務を見直していくことが望ましいこと、これはあくまでも代表例で地域の実情に合った形で見直すことが有効であることが追記されております。今回は古い方をベースに考えていただいても結構です。

続いて9ページ目をご覧ください。議論の参考として、8月6日に開催されました、信州学び円卓会議ともつくミーティングの様子を紹介いたします。信州学び円卓会議とは、長野県の子どもたちにとって最適な学びのあり方を検討するため、令和5年度から実施している会議です。座長は、本日もご参加いただいております信州大学の荒井先生が務められ、県民文化部に事務局を置いて実施しているものです。今年度は、広く県民の皆さんと一緒に「学びの新しい当たり前」について考えるともつくミーティング、という企画で開催しておりまして、そのうちの1回を8月6日に実施した、そんな形になっております。

8月6日の議論の詳細は、10ページをご覧ください。学校関係者、保護者、NPO、フリースクール、大学生等、様々な方が参加されました。そんな多様な皆さんで、このいわゆる3分類全体から関心のある業務を選んで、先生の負担を軽減できそうなことのアイディア出しを行っていただきました。その結果を10ページに掲載しています。例えば、高学年が低学年の面倒見るような形にしてはどうか、毎日5時間授業にしたらどうか、外部のコーディネーターが集まれる専用の部屋を校内に作ったらどうか、等の様々なアイディアが出されました。この後のグループ討議でのヒントにいただければと思います。事務局からは以上です。

(長野県教育委員会 武田教育長)

ただ今、事務局の方から説明ありましたが、この会議で話し合っている目的は、現場の先生方に勇気や元気をお届けしたいということでございます。現場の先生、ここまでのところでどんなふうに受け止めておられるか、ちょっとお聞きしたいと思います。野口校長先生いかがでしょう。

(長野市立緑ヶ丘小学校 野口校長)

緑ヶ丘小学校野口でございます。10 ページの内容を見させていただいて、いずれも各学校で取り組み始めているような内容のものも含まれてるなという感じがします。例えばリソースルームみたいな感じで空いた子どもたちの教室、空き教室を地域の皆さんと一緒に活動する部屋にするとか、そんなことは少しずつあるかな。連学年で低学年の子どもたちの面倒を見るということも、聞いているところです。

また、やはり学校だけではなく外部と繋がるという点では、本当にこれからもっともっと学校も開いてかないといけないんだろうなと思うところと、一方で、例えばここでいう⑫ですが、少子高齢化に伴う地域の高齢化で、地域行事がもう成り立たない。そんな中で複数の地域を繋ぐハブみたいな学校の役割っていうのも、今着目されてきて、地域の活性化ということで、ともに何かやってくこと、そんなことが求められるのかなと思いました。以上です。

(長野県教育委員会 武田教育長)

中学校の方はどうでしょう。

(長野市立裾花中学校 土屋校長)

共通する部分もあるのですが、今、進めていることは「地域の子どもは地域で育てる」というキーワードを地域の方々と共有して、ボランティアの方々に常駐していただいたり、地域の方が、子どもたちが地域に出ていく活動を支援していただいたりしています。しかし、そこにはかなり教職員のエネルギーが要るわけで、また賛同してくれる方々が多いのはありがたいのですが、一部の方々は忙しいので、「なんで学校への協力をしなきゃいけないんだ」というような方々もいます。説明していけば分かっていたのですが、まだまだそういう考えがあるというところです。そういう中で、これからの学び、子どもたちに必要な学びをつくっていくときに、本当に地域・保護者が一体になって進めていける、その辺で子どもが悪さをして、「学校は何やってるんだ」じゃなくて、地域の方々が、「お前たち何やっているんだ」と注意していただけるのが当たり前になっていく、そういうところができるっていくといいなと思っています。ところであります。

(長野県教育委員会 武田教育長)

はい、ありがとうございます。あと8月6日にもつづきミーティングでもご議論

されたようですが、荒井先生その関連でコメントをいただけますか。

(信州学び円卓会議 荒井座長)

はい。8月6日の午後に松本市立博物館を会場に「ともつくフォーラム」を開催し、働き方改革をテーマとした対話の場を設けました。その成果は、お配りしている資料の10ページにまとめていただいております。「支えていく」ことに関する温かな思いを決して無駄にしてはいけないと感じているところであります。以上です。

(長野県教育委員会 武田教育長)

はい、ありがとうございました。ではこれからグループ協議に入っていきたいと思います。事務局お願いします。

(長野県教育委員会事務局 教育政策課 中村企画係長)

皆様にはお手元の参加者名簿、座席表記載の通り、AからFの6グループに分かれていただき、30分のグループ討議を行っていただきます。名簿に●の印がついている方は、お手数ですが、前回同様にグループ討議の進行役をお願いできればと思います。今日の内容は、各グループの書記が入りメモをとらせていただきます。またグループBとEの皆様におかれましては、スペースの関係で別室にご移動いただき、そこでグループ本番を行っていただきます。それ以外のグループの皆様は、近くで椅子を丸く並べていただいて討論をお願いします。椅子の移動については職員がサポートさせていただきます。

それでは恐れ入りますがグループごとを集まって開始をお願いいたします。職員がサポート入りますのでよろしくお願いします。

4 グループ討議

【各グループから出た意見は、別添参照】

5 グループ討議の議論結果の共有（知事、ここからウェブにより参加）

(長野県教育委員会 武田教育長)

知事にはこのあとご挨拶いただきます。グループ討議が終了したところですので、この後各グループからそれぞれ発表をしていただきますので、発表を受けてまたコメントをいただきたいと思いますと思いますが、よろしいでしょうか。それではご挨拶をお願いい

たします。

(長野県 阿部知事)

改めて、皆様おはようございます。今日は途中から、しかもオンラインでの参加で大変恐縮でございます。まず、今日は皆様大変お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

子どもの学びをトコトン支える県民の会ということで、信州学び円卓会議ですといろいろな議論をしていく中で、今取り組まなければいけない課題は、学校の先生方を解放するというかですね、いろんな仕事をたくさん請け負わされている先生方の負担をなるべく軽くして、学校の先生、教員の皆さんが本来取り組むべきことに集中してもらえるような環境をつくっていくということが、大変重要だと思っております。

今日もそういう観点でご議論いただいているところですが、前は学校とか先生がやらなくていいことは何なのかという観点でありましたが、今回は学校あるいは先生方が担う業務であってももっと負担を軽くできるんじゃないか、という観点で意見交換をしていただいていると伺っています。

学校の先生方の負担軽減は、我々行政、学校を取り巻くすべての関係の皆様方にとって、共通のテーマだと思っております。ぜひそうした思いを共有していただきつつ、この場合は学校の先生のための場ではなくて、最後はそのことが結果として子どもたちにとってより良い環境をつくっていく、子どもたちの1人ひとりの能力をしっかりと伸ばせる、好きなこと・やりたいことをしっかりとってもらえる、そうした学びをつくっていくということが、最終的な目標だと思っているので、ぜひ今日この後グループ討議の発表を聞かせていただいて、一緒になって取り組ませていただきたいと思います。

信州大学の荒井先生には県民会議、円卓会議ですとリードしていただき、大変感謝しております。この県民の会、ぜひ1人でも多くの皆様の理解と共感を得ながら、子どもたちの学び、信州から学びの新しい当たり前を創っていこうと、こういう思いを共有しながら、取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。今日はありがとうございます。

(長野県教育委員会 武田教育長)

はい、ありがとうございました。それでは各グループから、ただいま協議いただいたことについてご発表いただきたいと思います。各グループ、2分以内ということで

お願いをいたしたいと思います。Aグループお願いします。

(Aグループ：長野県PTA連合会 城村会長)

ありがとうございます。Aグループです。参加者は市長会白鳥市長、商工会、学校現場、PTAの4者でした。

まず今回、テーマとして様々なこととお話させていただいたんですけれども、例えば清掃活動において、様々な議論があるかと思うんですけれども、学校現場とするとやはりこれは心を育てる活動ということで、これは教育の本質そのものじゃないか、ということで、これをどう守っていくのか、教員の負担を減らす、教育の本質をどう守るのかというテーマを示されています。

同時に、そういったものを守っていく、支えていく人たちの善意に頼っていくのみでは、なかなか持続できないだろうと。手当をどうしていくのか、人的、経済的なものをどうしていくのか、現実的な課題があるように感じました。その中に1つ、キーワードで出たのが「チーム制」でございます。

伊那市の事例も教えていただきました。様々な保護者対応の中で、スクールロイヤー制度、弁護士・医師・警察等のチームがなるべく早く現場に入り対応してくださっているそうです。あるいは学校登山、今はなくなったところも増えてきましたけれども、登山に不慣れな学校の先生方にすべてお任せするのではなくて、登山経験者、ガイドの方を入れ、あるいは消防の方、医師看護師等に入っていて、学校登山、生徒たちの経験の場を守るということをされている、とお聞きしました。そういった経費は市の方で出していただいているということでございます。

先生方の今後の働きを守っていく上では、チーム制をどうしたらいいのかということで、具体的には⑦校内清掃、⑩授業準備、⑫学校行事の準備運営、⑬進路指導、そして⑭支援が必要な児童家庭への対応というところが上がってきております。この辺りはチーム制でやっていけるといいかなと考えています。

そしてまた、学校での支援が必要な児童生徒の家庭の対応は、スクールカウンセラーが入っているんですけれども、もう一歩進んでソーシャルワーカー等が入っていったら、より家庭にコミットしていくというところも重要なかなというところで話が出ております。以上でございます。

(長野県教育委員会 武田教育長)

ありがとうございました。次Bグループお願いします。

(Bグループ：長野県小学校長会 桂本校長)

Bグループですけれども、町村会の藤澤村長、商工会議所、信州大学、養護学校PTA連合会長ということで、様々な立場から色々なアイデアを出していただきました。私は学校の立場ですので、支えていただくアイデアを出していただいたということであらためて実感しました。

⑤調査回答については、効率化を図りつつ、校務支援システムをよりバージョンアップさせていく、そこに生成AIをからめていくとよいということがありました。時期によっては、様々なところから同じような質問が届きます。これは学校だけじゃなくて、様々な団体も辟易しているというようなことでありますが、それをもう少し工夫して精度を上げることができないか。そしてこういうふうに取り組んでいくと、これだけ業務を、生成AIの使い方も含めて、県から好事例として出してもらおうと時間の効率化に繋がると、そういうものを改革できるようにしたいという意見が出されました。

それから⑦清掃については、長野県教育がこれまで大切にしている知・徳・体に繋がるところなので、一生懸命取り組んでいるのが分かります。ワールドカップ日本代表のサッカー選手の行為は、これまでの教育によるものであるという話もありました。学校としては、清掃の価値を大切にしながら簡易清掃を取り入れるなど短縮化を図っていくこともよいのではないかと思います。

⑧部活については、自治体が一生懸命取り組み始めているが、様々な状況の中で我慢する生徒が出ないようにするにはどうしたらよいか、運動部だけでなく文化部も含めて、これも県の方で好事例を紹介していただくことが今後につながるかなと。

後半では、色々なところで連絡調整をするコーディネーターの存在が大きいだろう、それを全て学校が引き受けてしまうと学校が大変になる、外部との連携を図っていくために地域のコーディネーターやコミュニティスクールで、という捉え方だけではなく、日常的にそういう方がいるといいなという話が出ました。

(長野県教育委員会 武田教育長)

ありがとうございました。AグループBグループとも⑦清掃が話題になったようでございます。Cグループお願いします。

(Cグループ：長野県公民館運営協議会 松木会長)

はい。Cグループお願いいたします。Cグループは、長野県警、市町村教委連絡協議会、高等学校会長、そして私、公民館の代表でした。

出てきた話題なんですけれども、1つ目は、⑧部活です。部活動に関しては、地域展開ということで、ニュース等で話題になっているものが多いですが、かつてはもともと学校に部活動がなかった、いつのまにか中学高校に部活動が入ってきているという現状がある、そういうことを考えると、学校単位で部活をやる必要がないのではないか、地域単位でやってもらえればよいのではないかと、という意見でした。長野市のように大きなところはよいが、小さな学校は部活そのものが学校として成り立たない現状があるので、地域単位で持っていくのはいいことではないかと、という意見が多く出されました。

2つ目、⑫学校行事です。学校行事については、運営そのものを教員ではなく、地域の方々とか子どもに考えさせる等、色々な人の手を借りて進めていくことで教員の負担軽減になっていくだろうという意見が出ています。それと併せて学校行事そのものもスリムしていかないと、あれもこれもは無理な話です。行事そのものをスリムにしていくことで教員の負担軽減につながっていくのではないかと、そのような意見が出されました。

部活、学校行事を中心にやってきましたが、それ以外では⑩授業という話題になりました。授業は教員そのものの仕事なので難しい。採点について誰かに代わってもらうことはできるかもしれないが、最終的には教員だろう。

⑨給食については、教員は45分間の休憩時間を取れないという現状をもってすると、教員以外の方に入っていただくことについては、ぜひそのような方向で進められないものか、という意見が出されました。

最後に⑦清掃について、清掃は長野県が非常に大事にしている教育の1つですが、これを軽減していくことを考えると、なにも毎日やる必要はないのではないかと、そのようなご意見がございました。Cグループについては以上です。

(長野県教育委員会 武田教育長)

はい、ありがとうございました。それではDグループお願いいたします。

(Dグループ：長野県私立中学高等学校協会 校長部会長 添谷校長)

よろしくお願いいたします。長野日大の添谷と申します。

テーマにしたのは、⑭支援が必要な児童生徒・家庭への対応、⑧部活、⑦掃除、この3点です。

支援が必要な生徒さんへの対応ですが、特に学校に来られないお子さんについては、スクールソーシャルワーカー、これまでも議論で出ておりましたが、外部機関との連携が非常に重要であると。また人材登用もまた、財源等もぜひ自治体の皆さんにお願いしたいというお話でございました。

部活につきましては、今、地域展開が順次進んでおります。この2学期がおそらくいちばんの過渡期。この2学期に学校部活動が終わるという中学校がかなり多いと予想しております。その中で、地域クラブという形で、競技によっては非常に進展が見られるというところですね。ただその担い手につきましては、やる気のある先生がやっている場合と、一般の方がやってる場合とそれぞれあるというところかと思えます。ここは先生方のやりがいに繋がっているのであればぜひ応援したいというところでございます。一方で勤務時間等も決められておりますので、過剰な労働にならないように、このやる気のある部活動の先生方へのいい意味での応援が必要だろうということだと思います。

最後清掃ですが、これやはり教育的意義があると長野県の公立小学校、中学校高校でも取り組んでいるところが多い。というところで、ぜひ生徒さんが主体的に自発的に取り組んでいける、先生方が過度に関わらなくてもですね、何か清掃活動が進んでいくような文化をつくれるのが理想だろう。それが先生方の業務軽減にも繋がっていければというところでございます。

最後にこれだけちょっと申し上げておきたいと思います。先生方の勤務時間は7時間から8時間の間です。この間に授業の準備時間はほとんどないと思います。実態としては、空き時間等も今日ここで議論しているような業務をやっておられるということとです。

教員免許が必要な業務は、授業です。ですのでその授業準備にかかる時間を、いかにこの勤務時間内で創出していくかということは、非常に大事な点と。ぜひ教員関係者だけではなく、県民の皆様もですね、先生方の1日の動きですね、どこかでそういったことを知っていただく機会があると、また先生方を応援できるのではないかなというふうに思います。先生方がかなり持ち帰って授業準備等しておられる様子も、私は見てきました。公立私立も同様です。ぜひ皆さんでですね、そういった先生方の実態も、一緒に共有していただければと思います。

(長野県教育委員会 武田教育長)

ありがとうございました。Eグループお願いします。

(Eグループ：信州学び円卓会議 荒井座長)

よろしくお願いします。PTA関係者、中学校関係者、特別支援関係者と議論いたしました。

最初は、3分類のうちの「学校の業務だが、必ずしも教師が行う必要のない業務」部分です。

1つ目は、⑤調査統計への回答についてです。これについては、現時点でもフォーマットが整っていない調査があったり、その都度学校名や連絡先を入力しなければならない状況が未だあります。また、誰が回答するかという担当者の負担問題も重要ですが、そもそも物理的な量が多いため、県主導でアンケート等の総量を減らしていく取組を進めていく必要があるという意見が出ました。

2つ目は、⑦校内清掃についてです。これについては、そもそも「校内清掃」に長野県の教員がどの程度負担を感じているのかを確認し、その上で、議論を深めていく必要があること、「掃除を大切にすること」と「毎日掃除を行うこと」は違うため、軽重付ける必要があるというご意見がありました。

3つ目は、⑧部活動についてです。これについては、先行する運動部活動の議論だけでなく、文化部活動に対する議論も積極的に行うべきであるというご意見が出ました。

このほか、配布資料の8ページ目の最新の中教審の議論と関わって、学校の開錠や施錠に関しては、経費負担の問題を解決すれば、警備会社などの専門業者が担い手として積極的に検討していく余地があるということで、経費を確保することで解決できる部分と、経費を確保することができても担い手がいない部分もあるため、そうした整理も必要であるという意見が出ました。

次に、3分類のうちの「教師の業務だが、負担軽減が可能な業務」の部分です。⑩授業準備、⑪学習評価や成績処理に関しては、教員本来業務であるという理解を前提としつつも、ユニバーサルデザインの観点を踏まえて、教材の共有も必要ではないかという意見が出ました。

最後に、⑭支援が必要な児童生徒・家庭への対応についてです。こちらは、教育分野と福祉分野の境界線の議論となりますが、まずは1クラス当たりの人数が物理的に多いという状況があるため、少人数学級化を加速させていく必要があること、一度に

全学級というのは難しいことから、例えば、特定の学級から、小学校の低学年だけなどがありうるかと思いますが、施策の重点を決める必要があるという意見、外国由来の児童生徒に対しては、現在、取出授業や翻訳アプリを活用したりしていますが、自治体を横断するセンター化も模索すべきという意見が出ました。

最後に、「不登校児童生徒の対応」についてはフリースクールとの連携・協働を進めていく必要があるという意見が出ました。

(長野県教育委員会 武田教育長)

ありがとうございます。最後Fグループお願いします。

(Fグループ：長野市立緑ヶ丘小学校 野口校長)

Fグループは行政、地域関係者、企業、学校から成るグループです。ともつくミーティングに基づき、分類の⑧部活動と⑫学校行事の準備運営について話をしました。しかしだんだん話が、個別対応だと追いでまたどんどん新たに業務が出てくるんじゃないか、つまり今回個別の問題よりも、もっと大きな枠で捉えた方がいいんじゃないかなという流れになりました。そして学校を支える風をどう起こすか、学校や地域とともに育っていくという風をどう起こしたらいいか、そんなような話になりました。

最後に、やはり学校が門戸を開いていくことが大前提なんですけれども、企業のノウハウを投入することで、企業のサービスですとか運営ですとか、そういったようなものをどうやって学校が積極的に入れていくのか、それが学校の成長にも繋がるし地域ももっと成長するし、それから企業も成長する、双方向が成長する枠組みを考えていくことが大事なんじゃないかというようなことが出てまいりました。

そしてその取っ掛かりとしては、例えば中学校の職場体験、小学校の各種見学や交流会、そういったものをベースにしながら、地域も含め win-win-win といいですか、そういうスキームを作っていくことが、これから大事なんじゃないか、そんな話題になりました。以上です。

(長野県教育委員会 武田教育長)

はい、ありがとうございました。知事、6つのグループから話をいただきましたけども、どのようなご感想でしょうか。

(長野県 阿部知事)

はい、どうもありがとうございました。皆さんそれぞれディスカッションしていただいた成果発表いただきありがとうございました。今のお話を伺って、知事という立場から3点、私が感じていることを申し上げたいと思います。

まず1点目は、学校の先生の負担軽減をしていくときに、いろんな人に分散していかないといけない。そのときに純粋にボランティアでやっていただく部分と、お金を支払う部分、あるいはもう完全に民間企業に委託する部分とか、多分外部化の仕方が幾通りかあると思います。そこは我々、今日は市長会・町村会からもご参加いただけてますけれども、市町村と県で財政的にどうサポートするかというのをしっかり考えないといけないと思います。全体をシステム化すること、要は、個々の学校が問題提起して「なんとかしてくれ」というふうにやっていると、いくら経っても抜本的に変わらないので、ここは市長会・町村会それから教育委員会の皆さんと一緒に考えていくテーマだと思っているのが1つ。そこはしっかり我々の責任で考えないといけません。

2点目は、そうした中でやはり専門的な能力が必要な分野がいくつかあると思います。例えば、どんどん人口が減る中で役割分担と連携っていうこともやっていかなければいけない中で、あっちにはこの専門家、こっちにはこの専門家を配置するっていうのは、人数に限りがある中で、なかなか難しい部分もあると思います。そういう意味では、教育委員会の視点だけではなくて、市町村とか県の福祉部局を始め、関係するところと一緒に人材の共同配置、協働活用みたいなことも含めて考えないと、「このこの人たちは教育委員会のためにしか働けません」「こっちの人たちは福祉の観点で委託されてるから福祉の仕事しかしません」、というふうになっちゃうと、完全に縦割りになってしまうので、特に専門家の活用については部局横断、総合的な対応が必要かなと思います。

それから3点目、調査統計の改善みたいなお話があって、これまさに、学校現場に対して我々行政とか学校以外が過剰に負荷をかけている部分があるんじゃないかということで、ここはあり方を改善しないといけないと思います。今日の資料の中にも参考で文科省から示された新たな3分類、あえて言うそうですね、余計なお世話だというのが私の感覚でありまして。今日全国知事会長としての会見を開く予定になっていますが、戦後80年経って、未だに地方自治とか民主主義とかですね、必ずしも成熟していないんじゃないかというふうに思ってる中で、文科省の人たちは一生懸命やってると思ってるし能力も高くて素晴らしいと思っているんですが、こうやって文科省が細

かく示せば示すほど、学校現場の人たちは真面目なのでこの通りなんとか頑張らないといけないとか、あるいはいろんな議論をするときも、こういう視点が頭にインプットされてしまうので、あまり柔軟な発想がしづらくなってしまってるんじゃないかというふうに思います。そういう意味でさっきの調査統計の改善みたいな話で私が感じているのは、学校現場においてはもっと自治的な運営、それから我々、例えば知事会や国にいろいろ文句言っておりますけども、やはり県とか国にもですね、もっと文句を言ってもらいたいと思います。

教育公務員は政治活動を制約されてしまっているのも、なかなか政治的な発言だと思われるような発言がしづらい部分があると思いますので、そういうところは行政システムの中で、ちゃんと教員の皆さんの声を受け止めて、外部であったり国に伝えていく仕組みをつくっていかないと、いつも一方通行で国とか県から言われっぱなしでそれを受け止めて頑張るという形だと、あまり健全ではないなと思いますので、学校現場の皆さんに、ぜひ学校自体も民主的に運営していくという観点を共有していただければありがたいと思います。

最後4点目ではありますが、先程授業本体の話があって、私は実はこれちょっと皆さんに投げかけではありますが、授業本体も見直せないか、ぜひ真剣に考えていただきたいなと思います。1つはA I活用。タブレットを皆さん持ってるので、そういうものをもっともっと活用した授業をして、学校の先生の負担軽減ができるのではないかというふうに思いますし、あるいは今日私こうやってオンラインで参加させてもらってますけども、一斉型の授業、ある程度必要な部分は、教え方が本当に上手な先生がオンラインやビデオで授業録音やオンライン配信をして、それを子どもたちが聞いて、学校現場の先生はそれにプラスアルファで子どもたち1人ひとりに合ったことを教えてあげるような、役割分担みたいなことが本当にできないのかなと。すべて個の先生の力量に依存していると、なかなかP T Aの人たちは言えないと思いますけど、私がいろんな保護者の人たちと話すと、担任の先生とか、授業を受け持ちの先生とかは、自分もそうですけど、「あの先生だと当たりだ」とか「この先生だとちょっと心配だ」とか結構皆さん思ったりしてる場所があるんで、何かやはり、授業の質の均一化っていうことを考えたときに、子どもの能力を伸ばす意味での多様化が必要な反面で、基本的なところはもっと均質化していくっていうことが必要だと思いますので、そういう意味では今のA Iだとかデジタルだとか、もっと使える部分があると思いますし、あと最後は先程の文科省の話にも関連しますが、本当に授業時間数って今のままでいいのかと。授業の準備時間が取れないほど教員がいっぱい授業して、子どもたち

は「授業時間数が多くて嫌だな」と内心思いながらも、「学校が決めてるからしょうがない」と思って付き合ってるような状況が、一部にはあるんじゃないかと思いますので、そういう意味ではこれも国が決めた時間数に厳格に従うという発想をもうちょっと柔軟にしたときに、本当に今の授業時間数がいいのかってということも含めて、ぜひ考えてもらえればありがたいと思います。

ちょっと長くなりましたが以上です。よろしくお願いします。

6 「来校者の皆様へ」のポスター（案）について

（長野県教育委員会 武田教育長）

ありがとうございました。それでは前回来校者への注意啓発ということでポスターを、という提案をしましたが、変更した箇所があるので、端的に説明してください。

（長野県教育委員会事務局 教育政策課 中村企画係長）

資料 11 ページをご覧ください。前回の会議でお示ししたのが、向かって左側の案になりますが、前回の議論を踏まえて少し見直したものを資料 2 としてお付けしております。ポイントは保護者との良好な関係性づくりです。前回第 1 回のグループ討議でも、保護者との関係性を良くしていくことは重要なとして、多くのグループから示されたところです。学校の先生と保護者は本来、3 年ないし 6 年一緒に子どもの学びを支える仲間でありますので、そういった頭を踏まえてポスター上での訴求内容を厳選し、向かって右側のような案で実際に各学校の方に配布したいと、このように考えております。説明は以上です。

（長野県教育委員会 武田教育長）

はい、ということで前回、時間内で相談とかそういうような文言が入ってましたけども、そういうのは抜いて、教員に行きすぎた行為はやめてください。それだけにいたしましたのですが、いかがでしょうか。

（長野県 P T A 連合会 城村会長）

ありがとうございます県 P T A 連合会城村でございます。まず総じてよろしいかなと思います。反面、前回であれば「8 時 15 分から 16 時 45 分です」ということが示されていました。このあたりの情報は保護者も知っておいた方がいいかなとも思ったりもします。

今回のポスターとして前面に広げるのは右の方で、今回の案でよろしいかと思いますが、先生方の勤務時間についてほとんど知らない保護者が大変多くいますので、そのあたりを、ぜひまたPTAも含めてですが、周知していきたいなと、そんなふうに思っています。

(長野県教育委員会 武田教育長)

これを最初に要望いただいた校長会は、いかがでしょうか。

(長野県小学校長会 桂本会長)

はい。ありがとうございます。確かに勤務時間については、今回削除した理由にあるようなことはあるかと思います。ただ、城村会長が言われるような学校の勤務時間、添谷さんの話にもありましたが、その認識っていうのは保護者も知っていたほうがいい。学校も先生たちはこの時間で頑張ってますってことは必要だと思います。

ポスター的には右側の新しい案でよろしいかと思います。

(長野県教育委員会 武田教育長)

ありがとうございます。荒井先生いかがですか。

(信州学び円卓会議 荒井座長)

はい、ありがとうございます。前回の議論の後、マスコミ等でも取り上げられたこともあり、私のところにも色々なご意見を頂戴しております。最初に確認すべきは、今回の件は、保護者全般ではなく、「理不尽・不当な要求をする保護者」に対する困り感に対応したものだという点です。この意味で、保護者対応で苦勞されている教職員にとっては、歓迎の取組であることは間違いありません。これに対して、弱い立場にある保護者を萎縮させてしまう可能性があります。従って、学校が一律にシャッターを下ろし、対話の機会を拒否しているわけではないというニュアンスを丁寧に伝えていく必要があると思います。

なお、勤務時間の明記に関しては、今回このポスターで伝える必要はないかと思いますが、その代わり、ぜひ年度当初などのタイミングで、各学校が「学校だより」等を通じてきちんと明示していくことは別途必要なことであると考えています。以上です。

(長野県教育委員会 武田教育長)

ありがとうございます。それではこのポスターを、長野県、長野県教育委員会、子どもの学びをトコトン支える県民の会の3者連名ということで全ての県内の学校に送付をいたしたいと思いますがよろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。

7 共同宣言(案)等について

(長野県教育委員会 武田教育長)

それでは次として、この会の発信をどうするか、どうアピールするかということです。これについて、例を出していただけますか。

このように、子どもの学びをトコトン支える県民の会からの共同宣言ということでこのようなポスターを作って、できたら先ほど示した来校者の皆さんへのポスターと並べて、各学校に貼っていただこうかなと思っています。この「子どもの学びをトコトン支える県民の会」というのは何なのか、そしてここでは何を求めて議論をしてきたのか、そしてそのことから県民に何を訴えるのかという、その3段構成になっています。この後、ここに載せる写真をみんなで撮っていただけたらと思います。

最後に、この「子どもの学びをトコトン支える県民の会」の構成団体を全て表記し、それからこの後皆様からもメッセージをいただきたいと思います。そのメッセージは、右側にある二次元コードから入って、県のホームページから見れるような形でやりたいと思いますが、こういう共同宣言を発することについてご意見をいただけたらと思いますがいかがでしょうか。白鳥市長いかがでしょうか。

(長野県市長会 白鳥伊那市長)

いいと思いますね、長野県下のこれだけの組織の皆さんがこのことについて、同じ思いでいるということで、この共同宣言というのを出すべきだと思います。

(長野県教育委員会 武田教育長)

ありがとうございます。経営者協会の保谷さんいかがでしょうか。

(長野県経営者協会 保谷総務部長)

よろしくお願いします。広く伝わるといいますのでぜひお願いしたいと思います。

(長野県教育委員会 武田教育長)

ありがとうございます。市町村教委の近藤先生いかがでしょう。

(長野県市町村教育委員会連絡協議会 近藤会長)

お願いします。1つは、「こういう話し合いをやってくれた学校を応援します。」とありますが、どの学校も全部やるんですか。

(長野県教育委員会 武田教育長)

これを全ての学校に配りたいというふうに思ってます。

(長野県市町村教育委員会連絡協議会 近藤会長)

この学校は応援して、この学校は応援しないということが有り得るのか。

(長野県教育委員会 武田教育長)

ポスターを貼る学校と貼らない学校があるってことですか。

(長野県市町村教育委員会連絡協議会 近藤会長)

応援する学校と応援しない学校があるっていうふうに受け取られちゃうとまずいと思います。

(長野県教育委員会 武田教育長)

全ての学校を応援するということですので、誤解を受けないようにしたいと思います。これは全ての学校を応援するということですので、具体的にどこの点の指摘でしょうか。

(長野県市町村教育委員会連絡協議会 近藤会長)

資料14ページ、学校改革の伴走支援というところで、「この会のような話し合いを学校単位でも持ちたい、学校を変えたい」と思っている学校とありますが、思っていない学校もあるかもしれません。

(長野県教育委員会 武田教育長)

なるほどわかりました。そこの表記は今後注意します。ありがとうございました。
おっしゃる通りだと思います。他いかがでしょうか。知事いかがでしょうか。

(長野県 阿部知事)

私は特に意見ないですよ。こういう共同宣言、皆さんが賛同いただけるのであれば、大変意義があると思っております。

(長野県教育委員会 武田教育長)

ありがとうございます。それではこの会の総意としてこういう宣言を県内の全ての学校へ提案お伝えするということによろしいでしょうか。

(異議なし)

はい。賛同いただきましたので、この後皆さん集まってポスターに載せる写真を撮りたいと思います。事務局説明をお願いします。

8 写真撮影

(長野県教育委員会事務局 水野教育政策課長)

皆様本日はどうもありがとうございました。最後に写真撮影を行いたいと思います。職員がご案内をいたしますのでお隣の部屋へご移動をお願いしたいと思います。知事は恐れ入りますがそのまましばらくお待ちください。

お隣の部屋で閉会となりますので、お荷物をお持ちいただき、移動の方をお願いいたします。

(了)